

県立広島大学収受	
第	号
20.12.25	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

所 信 表 明 書

公立大学法人県立広島大学
理事長 選考会議議長 様

県立広島大学学長候補者の選考対象者となるに当たり、次のとおり所信を表明します。

令和 2 年 12 月 25 日

氏 名 原田 俊英



「新しい時代を見据えた県立広島大学の発展と展開」

1. 推薦受諾にあたっての決意

今後2年間、本学の舵をとる立場を与えられた場合、教育・研究・地域貢献・大学運営の重点課題について、私の目指す所信を以下に述べます。

近年、顕在化した資源の枯渇と格差社会、環境問題、自然災害、少子・超高齢社会、限界集落に象徴される過疎化問題、さらには世界金融不安など、社会には多岐に亘る課題が山積しています。また、2020年は他国で発生した感染症が世界中を席卷し、我が地方大学にまで影響を及ぼし、世界的規模の危機管理が必要な時代となりました。

2015年9月の国連サミットで、国連加盟193か国が向こう15年間の達成目標SDGs (Sustainable Development Goals ; 17の大目標と具体的な169のターゲットで構成) を掲げました。本学が取り組む教育・研究・地域貢献・国際交流では、目標4の「質の高い教育をみんなに」ほか、残りの16の目標とも関連性があり、SDGsは本学の基本理念である「地域に根ざした、県民に信頼される大学」とも共通した活動指針を示しています。教職員は自由で多様な知恵を出し、連携・協力し行動を起こす必要があります。私は、学生・教職員の能力や情熱を最大限に引き出す大学運営に邁進する覚悟です。

また、建学以来100周年を迎え、地域から世界により一層の輝きを放つ県立広島大学の歴史を刻み続けるために、令和3年度に開学する叡啓大学と連携体制を構築しながら、101年目の力強い第一歩を着実に踏み出す所存です。

2. 教育改革—本学人材育成の目標

第二期中期目標・中期計画から第三期の2年目に至る、現在の中村学長時代に辿り着いた結論が2つあります。1つには、本学の目指す人材育成目標を「課題探究型地域創生人材」、2つ目はこの人材育成の目標遂行のために、既存の学部・学科等のフレームを再構築し、再編することです。

令和2年度に広島キャンパス (C) の地域創生学部 (地域創生学科：地域文化・地域産業・健康科

学の3コース)と庄原Cの生物資源科学部(地域資源開発学科, 生命環境学科:生命科学・環境科学の2コース)の再編がスタートしました。三原Cの保健福祉学部(保健福祉学科:看護学・理学療法学・作業療法学・コミュニケーション障害学・人間福祉学の5コース)も令和3年度にスタートし,同年度に全ての学部学科の再編が揃う予定です。様々な問題や刻々と変化する社会において,「主体的に学ぶ姿勢」で,「実践力」をもった次世代を担う人財を育て,社会に送り出します。これらは,2014年度から2019年度までの6年間,文部科学省に採択された大学教育再生加速プログラム(AP)事業を通じて得られた教育改革をさらに深化させることで実現できると考えます。

一方で,高度で専門的な知識や技術の修得に加え,県内産業や地域社会を支える職業人の育成のため,大学院教育にも充実が必要です。今年の世界規模の感染症(COVID-19)は広島でも猛威を奮っており,保健・医療・福祉科学,健康科学,人文社会科学などの分野でも博士課程後期の開講が喫緊の課題となっています。第3期中期目標・中期計画の最終年までに学部学科等再編フレームの中身を充実させ,多様性のある多職種間連携を可能とする高度な「課題探究型地域創生人材」を輩出できる総合大学の完成を目指します。

故ケン・ロビンソン卿が, TED Talksで教育とは, curiosity, individuality, passion, imagination, creativity, innovationを呼び覚まし, 伸ばすことであると語っていました。課題探究型地域創生人材の育成のために, 教員は学生のcuriosityに火を点け, 学生の個性にあったcreativityを引き出し, その環境を整えます。教員には日進月歩で発展する教育・研究に挑戦し, その研究を学生に伝承・教育するpassionを醸成する所存です。また, 学生・教職員のメンタルヘルス, ハラスメントにも留意いたします。

課題探究型地域創生人材の育成には, 学外での教育プログラムの充実も必要です。そのため, 従来から進めている地域戦略協働プロジェクト事業(包括協定締結の県内10市町と協働で地域の課題に本学教員と学生が取り組むもの)を拡充し, 学生が自主的に課題解決を行うプロジェクトを実現します。さらに, 全学的にアントレプレナー教育の精神を取り入れ, 学生が社会で困難に対峙する力を学ぶプログラムを地域と協働して実現します。

現在, 少子化の影響や高校生の県外志向とも相俟って, 受験者数が減少しています。本学学生を伴った高校訪問やWeb配信を用いた広報, 地域戦略協働プロジェクトへの高校生の参加などを通じて, 高校生に本学の魅力に共感してもらい, 本学の教育・研究に対する関心や認知度の向上に繋げる所存です。

3. 研究力の向上・研究費の獲得・地域貢献活動・国際交流活動を促進

私は6年間, 研究・地域貢献・国際交流担当理事・副学長として本学の研究力の向上を図るために活動してまいりました。大学の研究力の指標として文部科学省日本学術振興会科学研究費助成事業(略して, 科研費)の毎年の採択件数があげられます。本学はその採択件数が, 中国・四国・九州地方の27公立大学のうち14年連続トップで, 平成31(令和1)年度94件, 令和2年度105件と増加しています。また, 国の大型プロジェクト研究についても積極的な支援を行っており, 西日本豪雨災害の平成30年度を除く平成29年度から本年度までの競争的外部資金獲得は年間1億円を超し, 科研費と競争的外部資金とを合わせた総額は, 最近では2億円以上を維持しています。今後ともこれまで以上に各教員の科研費を始めとした外部資金の獲得などを支援してまいります。近年, わが国が「科学立国・日本」から遥かに後退している問題にも鑑み, 特に若手研究者の研究支援を強化してまいります。

本学には3キャンパス(広島C; 庄原C; 三原C)に各分野の高度専門職集団がいます。私は6年間の研究担当理事としての経験から, この大学の至宝を生かすべく, 異なる専門領域研究をネット環境の整備で有機的に結びつけ, イノベーションを創出する「異分野融合研究」に取り組みたいと考え

ています。

さらに、本学の特色ある研究を推進している5つのプロジェクト研究センターや宮島学センターによる地域連携で、産業の活性化等に寄与し、国際的に発展可能な「プラットフォーム」を構築してまいります。

4. 地域貢献について—地域への知の還元と協働

本学は、広島C、庄原C、三原Cの3Cを直線で結ぶと広島県のほぼ中央に位置するトライアングルを形成し、それぞれ県西部、県北部、県東部にあり、地域に根ざした研究活動や人材育成を進めています。これまで247件に達している、自治体やNPOから寄せられた課題の解決にあたる「地域課題解決研究」では、どのように活用されたか、協働されたかといった活用度を検証し、「地域課題解決研究」の事業の見直しや改善すべき点を課題提案者にフィードバックする点検サイクルを確立したいと考えます。

本学では、地域連携センターが主導する地域戦略協働プロジェクト事業が、これまで計114事業実施され、「課題探究型地域創生人材」の育成を本学教員と地域の皆様とが協働で行っており、今後もさらに県内に拡充してまいります。

保健福祉学部附属診療センターでの診療および臨床研究では、特に、認知症、神経難病、高次脳機能障害や発達障害児に係る診療などで、先進的なリハビリテーション医療や福祉を行う実践・指導拠点として地域に貢献してまいります。

5. 再挑戦社会へ—社会人学生確保・リカレント教育

昨年度より、本学では地域社会での高度専門職の人材育成のために、履修証明プログラム制度の運用を始めました。

また、中国地方唯一の専門職大学院ビジネス・リーダーシップ専攻（HBMS）は、様々な業種で活躍を志す社会人に実践的な経営学を教授しています。

一方、本学は社会復帰を促すための支援や幅広い世代や多様な階層への講演、公開講座等の啓発活動などを展開し、教員免許状更新講習、看護教員養成講習会等で地域における教職人材を育成してきました。

人口減少に伴う構造変化やデジタル化の進展により、仕事や暮らしが変化する中、社会の変化に的確に対応し、新たな付加価値を創造できる社会人学生やリカレント教育を通じた「人『財』の育成」を今後も発展させてまいります。

6. 最後に—地域から世界へ発信する大学に

本学から、教育・研究・地域貢献の活動を相互に有機的な繋がりをもって、地域から世界へ多様な分野で国際社会に発信する「課題探究型地域創生人材」を輩出し、確固とした「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を到達目標としたいと考えます。

別紙様式5 (表面)

履 歴 書

氏名	原田 俊英	生年月日	1956年 [REDACTED] (64歳)
住所	[REDACTED]		

学 歴	
年 月	事 項
昭和51年 4月	広島大学医学部医学科 入学
昭和57年 3月	同上 卒業
昭和59年 12月	九州大学遺伝情報実験施設研究生 (昭和60年3月まで)
平成15年 9月	中国黒龍江中医薬大学附属第一医院中西医结合神経内科高級訪問学者 (平成16年1月まで)
学 位・免 許・資 格	
年 月	事 項
昭和57年 11月	医師免許 (医籍登録 第270922号)
昭和63年 10月	日本内科学会認定内科医 (第54300号)
平成1年 1月	医学博士 (広島大学 第1793号)
平成3年 7月	日本神経学会神経内科専門医 (第1690号)
平成12年 4月	日本老年医学会指導医 (第109090号, 認定施設: 広島大学病院)
平成15年 3月	日本脳卒中学会専門医 (専門医番号: 20030278)
平成17年 1月	日本医師会認定産業医 (認定番号: 0402942号)
平成20年 10月	日本臨床神経生理学会認定医 (筋電図・神経伝導分野: 305, 脳波分野: 408)
平成22年 11月	日本認知症学会専門医 (第433号)
職 歴	
年 月	事 項
昭和57年 12月	広島大学医学部附属病院 研修医・医員 (昭和60年7月まで)
昭和60年 8月	広島大学医学部附属病院 文部教官助手 (第三内科) (平成3年3月まで)
平成3年 4月	県立広島病院第四内科 副部長 (平成6年3月まで)
平成6年 4月	広島大学医学部附属病院 文部教官助手 (第三内科) (平成7年12月まで)
平成7年 1月	広島大学医学部第三内科 医局長兼任 (平成11年12月まで)
平成8年 1月	広島大学医学部附属病院 講師 (第三内科) (平成15年9月まで)
平成15年 10月	広島大学医学部・歯学部附属病院 講師 (脳・神経・精神診療科) (平成16年3月まで)
平成16年 4月	広島国際大学医療福祉学部医療経営学科 教授 (平成23年3月まで)
平成20年 4月	広島国際大学大学院医療福祉科学研究科医療経営学専攻 教授 (平成23年3月まで)
平成22年 4月	広島国際大学大学院医療福祉科学研究科医療経営学専攻 専攻長 (平成23年3月まで)
平成23年 4月	県立広島大学保健福祉学部理学療法学科 教授 (現在に至る)
平成25年 4月	県立広島大学大学院総合学術研究科生命システム科学専攻 教授 (現在に至る)
平成27年 4月	県立広島大学 理事・副学長 (研究・地域貢献・国際交流担当) (現在に至る) [*補足1]

別紙様式 5 (裏面)

主な教育研究業績 (5件以内)	
年 月	事 項
平成 1 年 1 月	著書等 1. Genetic and clinical studies of Japanese patients with familial amyloid polyneuropathy. European Neurology 29: 48-52 (共著). 2. Relationship between osteopenia and clinical characteristics of Parkinson's disease. Movement Disorders 8: 507-511 (共著). 3. Late-onset familial amyloid polyneuropathy type I (transthyretin Met30-associated familial amyloid polyneuropathy) unrelated to endemic focus in Japan. Clinicopathological and genetic features. Brain 122: 1951-1962 (共著). 4. Clinical features of malignant syndrome in Parkinson's disease and related neurological disorders. Parkinsonism and Related Disorders 9: 15-23 (共著). 5. Relationship between autonomic nervous function and high-resolution music box audio. International Medical Journal 27: 13-15 (共著).
平成 5 年 1 月	
平成 11 年 10 月	
平成 15 年 4 月	
令和 2 年 2 月	
学会・社会における活動等	
年 月	事 項
平成 8 年 6 月	学会活動等 日本内科学会中国地方会・評議員 (現在に至る) 日本自律神経学会・評議員 (現在に至る) 日本老年医学会・代議員 (現在に至る) 日本神経学会・評議員 (平成 24 年 5 月まで) 日本認知症予防学会・代議員 (現在に至る) 日本心身医学会・理事 (現在に至る) 社会活動等 しょうばら産学官連携推進機構・理事, 三次イノベーション会議・委員, ひろしまヘルスケアネットワーク推進協議会・委員 (現在に至る) 平成 27 年 4 月 平成 31 年 3 月 全国ダイバーシティネットワーク組織中国・四国ブロック会議委員 (現在に至る) [*補足 2]
平成 9 年 11 月	
平成 10 年 6 月	
平成 12 年 5 月	
平成 28 年 4 月	
令和 2 年 6 月	
賞 罰	
年 月	事 項
平成 14 年 11 月	中日友好学問交流栄誉賞: 中国黒龍江中医薬大学附属第一医院 (李 延 院長) より受賞【Clinical neurology now especially in autonomic nervous system in Japan】(ハルビン) [*補足 3]
その他特記すべき事項	
令和 2 年 4 月	令和2年度学長プロジェクト研究: 認知症の超早期診断のためのAIを活用した診断支援システムの開発 令和 2 年 4 月 科学研究費・基盤研究(C): 軽度認知障害 (MCI) に対するハイレゾ・オルゴール音楽療法の有効性の検証 (令和2~4年度) [*補足 4]
令和 2 年 4 月	
上記のとおり相違ありません。	
令和 2 年 12 月 25 日 氏 名 原田 俊英	

※学長候補者選考の過程で、この履歴書は公表されます。

[*補足1]

職 歴	
年 月	事 項
平成 23 年 4 月	県立広島大学保健福祉学部理学療法学科 教授（現在に至る）
平成 23 年 4 月	県立広島大学大学院総合学術研究科保健福祉学専攻 教授（現在に至る）
平成 25 年 4 月	県立広島大学大学院総合学術研究科生命システム科学専攻 教授（現在に至る）
平成 27 年 4 月	県立広島大学 理事・副学長（研究・地域貢献・国際交流担当）（現在に至る） 《経営審議会，教育研究審議会，戦略・運営会議，部局長等連絡会議，国際交流推進会議・委員》（現在に至る） 《研究推進委員会，教員業績評価委員会・委員長》（現在に至る）
平成 28 年 4 月	《学部・学科等再編検討委員会・委員》（現在に至る）
平成 29 年 4 月	《目標・計画委員会・委員長》（現在に至る）
平成 30 年 9 月	県立広島大学新教育組織人事委員会・委員長（現在に至る）
（兼任講師）	
平成 16 年 1 月	中国黒龍江中医薬大学附属第一医院中西医结合神経内科 客座教授（現在に至る）
平成 16 年 4 月	広島大学医学部 非常勤講師（平成 28 年 3 月まで）
平成 22 年 4 月	県立広島大学保健福祉学部 非常勤講師（平成 23 年 3 月まで）
平成 28 年 4 月	広島大学医学部 客員教授（平成 29 年 3 月まで）

[*補足2], [*補足3], [*補足4]

学会・社会における活動等	
年 月	事 項
	学会活動等
平成 8 年 6 月	日本内科学会中国地方会・評議員（現在に至る）
平成 9 年 11 月	日本自律神経学会・評議員（現在に至る）
平成 10 年 6 月	日本老年医学会・代議員（現在に至る）
平成 12 年 4 月	日本脳卒中学会・評議員（平成 24 年 3 月まで）
平成 12 年 5 月	日本神経学会・評議員（平成 24 年 5 月まで）
平成 15 年 9 月	広島てんかん懇話会・世話人（現在に至る）
平成 20 年 11 月	Non-Motor Symptoms in Parkinson's disease (NSPD) 2008・世話人代表
平成 21 年 8 月	パーキンソン病関連疾患検討会・世話人（現在に至る）
平成 24 年 6 月	日本心身医学会・代議員（令和 2 年 5 月まで）
平成 24 年 6 月	The Council Member of the 1st Board of Specialty Committee of Collateral Disease of World Federation of Chinese Medicine Societies
平成 25 年 4 月	尾三パーキンソン病診療を考える会・世話人代表（現在に至る）
平成 28 年 4 月	日本認知症予防学会・代議員（現在に至る）
平成 30 年 9 月	広島てんかん懇話会・監事（現在に至る）
令和 1 年 11 月	自律神経障害と消化器症状についてーパーキンソン病診療から得られた知見を中心にー、第 123 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会，特別講演，広島市
令和 2 年 6 月	日本心身医学会・理事（現在に至る）
令和 2 年 6 月	第 62 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会・プログラム委員（現在に至る）
令和 2 年 9 月	日本心身医学会・コメディカルスタッフ認定制度委員会・副委員長（現在に至る）
	社会活動等
平成 4 年 8 月	広島県難病医療専門相談・囑託医（神経内科）（平成 16 年 3 月まで）
平成 19 年 11 月	広島大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会実地調査・外部審査委員（平成 22 年 11 月まで）
平成 23 年 3 月	生命とリズムー自律神経症状と疾患ー、第 8 回脳をみるシンポジウム in 三原，三原市
平成 23 年 3 月	認知症の治療、平成 22 年度県立広島大学公開講座「健骨・健康増進セミナー」，三原市
平成 23 年 8 月	パーキンソン病の運動療法と介護、三原市社会福祉協議会主催「パーキンソン病講演会」，三原市
平成 23 年 11 月	アルツハイマー病についての新知見、第 6 回臨床検査談話会，広島市
平成 24 年 2 月	脳力活用術～脳を使って認知症を予防しよう～、三原市市民公開講座「認知症予防講演会」，三原市
平成 24 年 3 月	認知症の病態と治療薬、「平成 23 年度健骨・健康増進セミナー ～認知症と骨密度・骨代謝～」，三原市
平成 24 年 5 月	社会福祉法人ナーガ福祉会・監事（平成 30 年 4 月まで）
平成 25 年 3 月	予防可能な軽度認知障害（MCI）の病態、「平成 24 年度健骨・健康増進セミナー ～認知症と骨粗鬆症～」
平成 25 年 3 月	誰もがなりやすい認知症の予防対策について、介護人材育成支援事業「認知症予防セミナー」，三原市

平成 25 年 7 月	認知症について、高大連携公開講座，三原市
平成 25 年 10 月	誰もがなりやすい認知症の予防対策と脳力活用術。県立広島大学同窓会健康講座，三原市
平成 25 年 11 月	脳・神経機能局在からみた認知症診療～治療・ケアから予防まで～。広島大学産学・地域連携センター医工連携拠点推進部門「メディカルエルゴノミティシヤン人材育成研修」，広島市
平成 25 年 11 月	パーキンソン病の病態と治療について。三原市社会福祉協議会「パーキンソン病講演会」，三原市
平成 26 年 3 月	生活習慣と認知症について。「平成 25 年度健骨・健康増進セミナー～生活習慣で認知症・骨粗鬆症を予防する！～」，三原市
平成 26 年 6 月	新しいパーキンソン病日誌と症状チェックリストのご紹介。「第 1 回三原 PD 診療を考える会」特別講演，三原市
平成 26 年 9 月	生活習慣の改善で認知症予防！（その 1 & 2）。NHK カルチャー，広島市
平成 26 年 9 月	生活習慣と認知症について～病態・治療から予防まで～。平成 26 年度「メディカルエルゴノミティシヤン人材育成研修」，広島市
平成 26 年 10 月	パーキンソン病の病態と薬物治療について。広島県病院薬剤師会・三原竹原地区研修会，三原市
平成 26 年 12 月	日常診療に役立つパーキンソン病のみかた。松永医師会学術講演会，福山市
平成 26 年 12 月	防ごう！認知症～知って得する生活習慣改善法～。広島県国民健康保険団体連合会総合健康教室事業「健康づくり」，世羅町
平成 27 年 3 月	生活習慣の工夫で認知症予防！「平成 26 年度健骨・健康増進セミナー ～生活習慣で認知症・骨粗鬆症を予防する！～」，三原市
平成 27 年 4 月	ひろしまヘルスケアネットワーク推進協議会・委員（現在に至る）
平成 27 年 4 月	しょうばら産学官連携推進機構・理事（現在に至る）
平成 27 年 4 月	三次イノベーション会議・委員（現在に至る）
平成 27 年 4 月	「未来を拓く地方協奏プラットフォーム（HIRAKU）」運営協議会・委員（現在に至る）
平成 27 年 4 月	脳特性「脳のしくみとその働き及び脳の病気“認知症”の予防法」。広島大学産学・地域連携センター医工連携拠点推進部門「メディカルエルゴノミティシヤン人材育成研修」，広島市
平成 27 年 8 月	認知症について。県立広島大学高大連携公開講座，三原市
平成 27 年 8 月	知っておきたい！！認知症とパーキンソン病のお話。広島県国民健康保険団体連合会総合健康教室事業「健幸づくり講演会」，世羅町
平成 27 年 8 月	日本における認知症と治療の現状。北京師範大学中国公益研究院国際養老産業管理 EME コース，三原市
平成 27 年 11 月	パーキンソン病とパーキンソン症候群！疾病のとらえ方。広島県理学療法士会・備北支部主催研修会，三次市
平成 28 年 1 月	より良いパーキンソン病の治療にむけて。パーキンソン病治療講演会，三原市
平成 28 年 4 月	「広島は、レモンで健康じゃ！」シンポジウム（レモン大学）・実行委員（平成 29 年 3 月まで）
平成 28 年 6 月	パーキンソン病を診る～日常診療のコツ～。三原市医師会学術講演会「第 2 回三原 PD 診療を考える会」特別講演，三原市
平成 28 年 8 月	認知症について。県立広島大学高大連携公開講座，三原市
平成 28 年 9 月	MBS テレビ「サタデープラス：《Dr. プラス》レモン酢で血管&お肌若返り」に出演
平成 29 年 3 月	メタボ・骨代謝関連データのみかた。「平成 28 年度健骨・健康増進セミナー」，三原市
平成 29 年 4 月	広島大学旧理学部 1 号館の保存・活用に関する懇談会・委員（平成 30 年 3 月まで）

平成 29 年 6 月	TBS テレビ「ジョブチューン アノ職業のヒミツぶっちゃけます！～名医たちがぶっちゃけ！病気を予防する最強の食べ物SP！～」に出演（骨粗しょう症，カルシウム，クエン酸，レモン）
平成 29 年 7 月	認知症と生活習慣病。「脳と身体のいきいきトレーニング～認知症予防講座～」，三原シティカレッジ 2017，三原市
平成 29 年 7 月	生活習慣を見直して認知症を予防する。平成 29 年度県立広島大学公開講座「脳と身体のいきいきトレーニング～認知症予防講座～」，三原市
平成 29 年 7 月	認知症について。県立広島大学高大連携公開講座，三原市
平成 29 年 11 月	第 72 回日本おもと名品展－広島・三原大会，審査員，三原市
平成 29 年 12 月	知って得する認知症予防について。第 706 回広島経営同友会定例会講演会，広島市
平成 30 年 1 月	「地域おこし協力隊活動 vs 学生」シンポジウム・パネリスト，広島市
平成 30 年 2 月	知って得する！認知症の診断・治療・予防。広島市南区老人クラブ連合会・友愛活動シルバーリーダー研修会，広島市
平成 30 年 3 月	パーキンソン病診療の実際～ケース・スタディから～。学術講演会（主催：大塚製薬株式会社），三次市
平成 30 年 5 月	社会福祉法人ナーガ福祉会・評議員（現在に至る）
平成 30 年 8 月	家庭で役立つ認知症予防について。県立広島大学高大連携公開講座，三原市
平成 30 年 8 月	まだ間に合う！認知症予防のお話。三原市ロータリークラブ例会卓話，三原国際ホテル
平成 30 年 8 月	自律神経と生体リズム。カルビー株式会社 Calbee Future Labo 講演会，広島市
平成 30 年 9 月	RCC ラジオカー「RCC おひる一な」生放送番組に出演：コソコソ健康増進号の紹介
平成 30 年 9 月	パーキンソン病におけるコンビネーション医療について。パーキンソン病講演会 in 三原（共催：全国パーキンソン病友の会広島県支部／エフピー株式会社），三原市
平成 30 年 10 月	認知症の兆候と予防について。県立広島病院・県立広島大学連携セミナー，広島市
平成 30 年 11 月	知って得する！認知症の診断・治療・予防について。認知症講演会（主催：三原市高齢者福祉課），三原市
平成 30 年 12 月	知って得する！認知症の兆候と予防について。認知症セミナー（主催：損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社），広島市
平成 31 年 2 月	広島県「エゴマ」サミット・実行委員長
平成 31 年 3 月	全国ダイバーシティネットワーク組織中国・四国ブロック会議・委員（現在に至る）
令和 1 年 8 月	家庭で役立つ認知症予防。県立広島大学令和元年度高大連携公開講座，三原市
令和 1 年 10 月	広島バイオテクノロジー推進協議会・会員（現在に至る）
令和 2 年 1 月	広島大学医学部第三内科同門会・監査（現在に至る）

賞 罰

年 月	事 項
平成 14 年 11 月	中日友好学問交流栄誉賞：中国黒龍江中医薬大学附属第一医院（李 延 院長）より受賞 【Clinical neurology now especially in autonomic nervous system in Japan】（ハルビン）
平成 16 年 1 月	中日友好中西医結合医学学術交流栄誉賞，中日友好臨床検査医学学術交流栄誉賞：中国黒龍江中医薬大学附属第一医院（李 延 院長）より受賞（ハルビン）
平成 20 年 2 月	黒龍江省高校科学技術奨励・三等奨：中国黒龍江省高校科学技術奨励委員会より受賞。 【“百会”与“大椎”配穴針刺治療血管性痴呆の研究】（ハルビン）

その他特記すべき事項	
平成 21 年 4 月	科学研究費・基盤研究(C)：心循環モニタリングを用いたストレス強度判定デバイスの開発と応用の研究（平成21～24年度）
平成 29 年 3 月	国内特許：骨密度改善組成物，骨密度改善用食品組成物，肝機能改善用組成物，及び肝機能改善用食品組成物
平成 30 年 6 月	国内特許：ヘルスケアデータ分析システム，ヘルスケアデータ分析方法，ヘルスケアデータ分析プログラム，学習済みモデル，情報処理装置，情報処理方法および情報処理プログラム
令和 2 年 4 月	科学研究費・基盤研究(C)：軽度認知障害（MCI）に対するハイレン・オルゴール音楽療法の有効性の検証（令和2～4年度）
令和 2 年 4 月	令和2年度重点研究事業・学長プロジェクト研究：認知症の超早期診断のためのAIを活用した診断支援システムの開発－医療連携とパーソナルデータの活用－（論文：Knowledge extraction of adaptive structural learning of deep belief network for medical examination data. International Journal of Semantic Computing 13: 67-86, 2019）